

論文概要の和文様式

雑誌における論文タイトル

Pre-pregnancy anti-inflammatory diet in pregnant women with endometriosis:
The Japan Environment and Children's Study

和文タイトル:

子宮内膜症合併妊婦に対する食生活指導について

ユニットセンター(UC)等名: 福島ユニットセンター

サブユニットセンター(SUC)名:

発表雑誌名: Nutrition

年: 2020 DOI: 10.1016/j.nut.2020.111129

筆頭著者名: 経塚 標

所属 UC 名: 福島ユニットセンター

目的:

子宮内膜症は不妊症の原因となりますが、妊娠した場合も早産のリスクが高いとされています。子宮内膜症の妊婦において、妊娠前の炎症を和らげる食事(抗炎症食)と早産および低出生体重児の予防効果の関連について調べました。

方法:

エコチル調査における単胎妊婦を対象としています。妊娠前の食事の内容から、炎症をもたらす食事(向炎症食)か炎症を和らげる食事(抗炎症食)かの程度を、食事質問票より個人の Dietary inflammation index (DII)を計算し、対象となる妊婦を5グループに分類し、子宮内膜症の有無でさらにグループ化しました。それぞれのグループにおける37週、34週未満の早産、2500g、1500gの低出生体重児の関連を調べました。

結果:

当研究の対象となる妊婦は88,398人でした。調査の結果、妊娠前に最も抗炎症食を摂取していた子宮内膜症合併妊婦は、最も向炎症食を摂取していた子宮内膜症合併妊婦と比較し、34週未満の早産、1500g未満低出生体重児のリスクが減少することが分かりました。

考察(研究の限界を含める):

子宮内膜症は女性の慢性の炎症状態と考えることができます。そのため妊娠前からの抗炎症食の摂取により早産や低出生体重のリスクが低下した可能性があると思われます。本研究の結果は妊娠前の食生活指導の重要性を改めて示すものと思われます。今回は子宮内膜症の診断方法、重症度は考慮されていないのが調査の限界点と考えます。

結論:

妊娠前の抗炎症食の摂取が子宮内膜症合併妊婦において早産および低出生体重児のリスクを減少させる可能性が示唆されました。